

ホステリングマガジン vol.30 / 2022 Autumn

JAPAN
Youth Hostels, Inc.

H^{OSTELLING} Magazine



Cover Interview

辻井 伸行

みんなが世界中の人とつながってほしい

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



サントリーホール ARKクラシックス

2022年 9月30日(金) 10月1日(土) 2日(日) 3日(月) 4日(火)

サントリーホール 大ホール&ブルーローズ(小ホール) 全10公演



ARK CLASSICS

アーティストック・リーダー

辻井伸行・三浦文彰

夢の競演の連続!

超一流の個人技とアンサンブルの妙技に酔いしれる

『極上の音楽祭』

9月30日(金) ■ 大ホール ■ ブルーローズ

公演 1 19:00 開演
辻井伸行 三浦文彰&フレンズ
オープニング・ナイト **完売**

10月1日(土)

公演 2 13:00 開演
辻井伸行
ランチタイム・コンサート

公演 3 16:00 開演
ARK室内楽Ⅰ 高木竜馬
ナカリヤコフ 小林美樹 ローゼマン

公演 4 19:00 開演
辻井伸行 三浦文彰
&ARKシンフォニエッタ

10月2日(日)

公演 5 13:00 開演
辻井伸行 ソロ・コンサート **完売**

公演 6 14:00 開演
ARK室内楽Ⅱ
ウェールズ弦楽四重奏団

公演 7 19:00 開演
辻井伸行 セルゲイ・ナカリヤコフ
三浦文彰&ARKシンフォニエッタ

10月3日(月)

公演 8 19:00 開演
THE BEST OF ARK BRASS
スペシャル・ゲスト:セルゲイ・ナカリヤコフ
残席僅か

10月4日(火)

公演 9 13:00 開演
ARK室内楽Ⅲ
三浦舞夏&レグルス・カルテット

公演 10 19:00 開演
辻井伸行 三浦文彰&フレンズ
クロージング・ナイト **完売**



チケット好評発売中

料金(全席指定・税込)

■ 大ホール ■ ブルーローズ

公演 2 公演 4 公演 7 S席 10,000円 A席 8,000円 B席 6,000円 B席 残席僅か ※公演 1 5 10 は完売

公演 3 公演 6 公演 8 5,000円 公演 9 特別価格 1,000円

[チケットのご予約・お問い合わせ]

サントリーホールチケットセンター
0570-55-0017 (休館日除く10~18時)
http://suntory.jp/HALL/

チケットスペース 03-3234-9999

チケットスペースオンライン 検索

※各プレイガイドではWEBのみで販売(電話・店頭販売無し)

チケットぴあ 大ホール公演(Pコード:219-283)
https://w.pia.jp/t/ark/ ブルーローズ公演(Pコード:219-288)

ローソンチケット 大ホール公演(Lコード:33060)
https://l-tike.com/ark/ ブルーローズ公演(Lコード:32671)

イープラス https://eplus.jp/ark/



中学生・高校生無料招待
文化庁 子供文化芸術活動支援事業

応募資格:公演当日18歳以下の中学生・高校生
公式HPから要事前申込 ※当日、身分証をご提示いただきます

※未就学児のご入場はお断りいたします。※出演者・曲目・曲順等に変更がある場合がございます。※単椅子でご来場されるお客様はご購入前にチケットスペースまで必ずお問い合わせください。※新型コロナウイルス感染症対策の最新情報・ご来場のお客様へのお願いはチケットスペースHP(https://www.lnts.co.jp/)をご確認ください。 ※本公演はマスクを着用されていない方のご入場はお断りいたします。

公式HP
QRコード





こどもはおとなに。
おとなはこどもに、
なれる場所。

日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟 (Hostelling International) や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

※本誌の情報は2022年9月20日現在のものです。
変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会
編集・発行人 寺島 真

TEL. (03)5738-0546

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

Line up

02 Cover Interview

辻井 伸行

みんなが世界中の人とつながってほしい

10 Youth Hostel Pick up

立科白樺高原ユースホステル

森と湖に囲まれたユースホステルから、必要とする人に旅を届けたい

14 Hostelling Magazine × 地球の歩き方

音楽の都 ウィーンを旅する

16 FYI, from HI-Office

17 LiLiCoの映画で世界を旅しよう!

18 おしえて! 旅GIRL

19 松島むうの晴れときどき旅びより

20 YH-GUIDE ユースホステルガイド 関東/北信越地方

みんなが世界中の人と
つながってほしい

Hostelling Magazine Cover Interview

Nobuyuki Tsujii

辻井 伸行

YAMAHA

PROFILE

辻井 伸行 (つじい のぶゆき)

2009年6月「第13回ヴァン・クライバーン国際ピアノ・コンクール」において日本人として初優勝を飾る。以来、ニューヨークのカーネギーホールの主催公演やイギリス最大の音楽祭「プロムス」などに出演し大成功を収めたほか、ウィーン楽友協会やベルリン・フィル、パリのシャンゼリゼ劇場などの著名なホールで例年コンサートを開催し、高い評価と多くの聴衆の支持を受けている。また、ゲルギエフやアッシュケナージなどの世界的指揮者からも高い評価を受け、これまでに数多くの共演を行っている。

フォト:小林潤次(七彩工房) / 取材協力:ヤマハアーティストサービス東京

🎵 初めての訪問先でも期待感いっぱい どんな反応があるか楽しみ

——辻井さんは、これまでも何度も国内外を旅してこられたと思うのですが、海外に向かう時はどんなお気持ちですか？

そうですね、海外はいろいろなところに行っていますが、特に初めて訪れる場所に行く時はワクワクしますね。「どんな街なのかな？」「どんな食べ物があるのかな？」とか、「どんな空気なんだろう」とか、その場所のことを調べている時のワクワク感はずごく楽しいです。もちろん、演奏することへの緊張感はありませんけど、聞きに来てくれるお客様の反応は場所によって違うので、初めて行く所では「どんな人が演奏を聞きに来てくれて、どんな反応をしてくれるんだろう」って、すごく楽しみです！

——クラシックのコンサートというと静かに演奏を聞いて、演奏が終わったら拍手をしてという、観客としてはそんな聞き方をイメージするんですけど、場所によって反応が違うんですか？

違いますね！文化の近いヨーロッパの中でも反応は様々です。オランダのコンサートヘボウ※1という歴史のあるホールで演奏した時は、全員がスタンディングオベーションですごい拍手をしてくれたり、アイスランドではステージを叩いたり足をバタバタ動かして反応してくれる方がいたり。海外ではスタンディングされている方が多いかな。気持ちをストレートに表現される方が多くて、それがダイレクトに伝わってきます。

——ヨーロッパ内でも違うとなると、アメリカは相当違いそうですね。

アメリカで演奏した時は、皆さんノリが良かったですね！ヒューヒューって言ってくださって(笑)。初めて国際コンクールで優勝したのが、2009年のヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール※2だったんですけど、その時はコンクールの演奏なのにまるでコンサートのようで(笑)、「アメリカの反応ってすごいんだなあ！」って思いましたね。コンクールなのに楽しい気分で演奏できるなんて思っていませんでしたから驚きました！

🎵 旅先での出会いが 自分の演奏に影響を与える

——コンクールといえばショパンの故郷で行われる世界的な若手ピアニストの登竜門「ショパン国際ピアノコンクール」に、2005年、17歳で出場されましたね。

はい。当時は高校生で、出場者の中で最年少でした。自分の中でプレッシャーはありましたが、「ポーランドでショパンを弾くことができる、それだけで自分にとってはいい経験になる」と思って挑戦しました。コンクールでは『マズルカ』という曲も

演奏したんですが、この曲はポーランドの民俗舞踏の舞曲なんです。で、どうしてもコンクールの前にそのポーランドの踊りを体験してみたくなくなって(笑)、地元の方と一緒に踊ったんです。その後に演奏したら、これまでのマズルカとは違う、感じのいい演奏ができたんです。コンクールでは4回もカーテンコールをいただくことができ、僕のショパンをみなさまに喜んでいただけた。知らない方たちと踊ったのがいい経験になりましたね。

——え？一緒に踊った地元の方って、関係者の方じゃなくて知らない方たちだったんですか？

はい(笑)。僕の母が、ポーランドの踊りを体験できるレストランを調べてくれて、そこに連れて行ってくれたんですけど、「ここではやってない」と言われてしまって…。すると母が無謀なことに交渉してくれたんです。知らない人に「この子、ショパンコンクールにでるので見せてあげたいんです！」って。

——「この子、ショパンコンクールにでるので」って(笑)。向こうの方も驚いたんじゃないですか？「ショパンコンクールにでる子がきちゃったよ」って。

いや、それが声を掛けられた方も、ノリが良かったのか、「わかった！じゃあ、やっているところに連れて行ってあげるよ！」って、車に乗せて連れて行って(笑)。

——あの大舞台の裏で、そんな出会いがあったんですね。楽曲の背景を知ると、音楽の捉え方や感じ方もまた変わってきそうですね！

そうですね、イメージが膨らみますし、演奏する上でもすごくプラスになるんです。

その作曲家の人生をたどって、実際に歩いた道を自分で歩いてみることもありますし、生前住んでいた家を訪れたり、当時使っていたピアノに触れさせていただく機会もあります。ショパンの生家にも行きましたし、ショパンが28歳から暮らしていたスペインのマジヨルカ島にも行きました。

——作曲家の足跡を追いかけているうちに、不思議な体験をしたりしそうですね(笑)

それが……実は、あるんですよ。ショパンにゆかりのある修道院に行った時なんですけど、なんだか色々感じてしまって。重苦しい雰囲気、修道院だったんですけど、ショパンが語りかけてきたり、ピアノの音が聞こえてきたり…。あれは不思議な感覚でしたね。「ショパンが肺の病気で苦しんでいた時は、どんな思いだったのかな」とか、思いを馳せていたら、急に涙が止まらなくなってしまうたりもしました。

——勝手なイメージなんですけど、演奏で各地を巡る時は演奏に集中して、それ以外の余計なことをしたくないんじゃないかと思っていました。

いえいえ、私は逆に演奏以外の気分転換をすることが大好きです。初めて行く街で散歩をしたり、その土地ならではのものを食べたりするのも大好きです。アメリカでは乗馬もしましたし、下から風が吹き上がってくる屋内型のスカイダイビングのようなアクティビティもやりましたよ！

—— えっ！？怪我したら大変じゃないですか！ピアニストの方って「手は絶対触らせない！」「危険なことには近づかない！」って、そういう繊細なイメージを持ってました(苦笑)

まあ、スタッフの人もついてますし(笑)。それが、旅の楽しさなので！！小さい頃から母がピアノ以外にもいろんな経験をさせてくれたので、そういうアクティブなことが好きなんです。日本にいる時も時間があれば、陶芸をしたり、釣りをしたり、ツアーの合間には温泉に行ったりもします。陶芸はちょっとでも気を抜いたら崩れてしまうので、繊細に土を触らなければいけない。その指先の感覚がピアノに似ていて、すごく集中できるんです。釣りも、魚がかかるのを待っている間の集中している時間がピアノと似ているなあと思います。山登りも好きで友達と一緒に電車に乗って高尾山に行ったりもしますよ！山の空気を吸ったり、鳥の鳴き声を聞いたり、友達と話しながら楽しく山登りをするのは、気分転換になりますし、とてもリラックスができて好きです！

海外だと、アイスランドでは氷河の中に入ったりもしましたね！マイナス何十度という寒いところで、氷河の氷を食べたり、すごく思い出に残っていますね。「こんなに自然が豊かなところで、アイスランドの人たちは生きているんだなあ」って感じました。アイスランドの人は本当に音楽が好きだし、出会った皆さんは人柄も温かい方たちばかりで、一緒に共演したオーケストラの皆さんもフレンドリーに接していただいたんです。レストランで、一緒に即興でセッションしたりもして、たまたまそこにいた人たちもその演奏を楽しんでいただいたり。コンサート以外でも楽しい時間がたくさんありました。その温かい雰囲気も、この自然の中だからこそ生まれたものなのかもしれないな、と感じましたね。アイスランドで出会ったオーケストラの皆さんとは日本でも一緒に演奏する機会を持つことができたんですよ！

※1 コンセルトヘボウ・・・1884年にこけら落としという歴史あるコンサートホール。第二次世界大戦前から現存するコンサートホールでありながら優れた音響と、また太陽光を取り込む大きな窓など特徴的なデザインでも注目されている。

※2 ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール・・・4年おきにアメリカ・テキサス州のフォートワース開催される国際ピアノコンクール。ソロリサイタルだけでなく室内楽や協奏曲などの能力が20日間にわたって審査され、優勝者には副賞として3年間の世界ツアーが約束される。





♪ 夢が叶って感じたのは 世界は広いということ

—— 少し話題を変えて、辻井さんはお酒がお好きだとか(笑)。

はい。もう、なんでも！ビールからワイン、日本酒、焼酎……なんでもですね。好きです(笑)。

—— 滞在先ではスーツケースをテーブル代わりに、スタッフのみなさんと“部屋飲み”をするのが恒例になっていると伺いました(笑)。

(マネージャーさん:なんでバシてるんだ……)

よくやりますよ(笑)。長期滞在になることも多いので、そういう時はキッチンがついている宿泊施設をよく利用するんです。スーパーマーケットで買い出しをして、マネージャーさんに料理を作っただいて、スタッフさんと皆んなでリラックスしてお酒を飲んで、食べて(笑)。そういうのも面白いんです！この間もイタリアのミラノに一週間滞在したんですけど、レストランで食事をした後にワインをボトルで買って、帰ってから部屋で飲んで……(笑)

—— 世界的なピアニストなのに、私たちとやってることは変わらないじゃないですか。

何も変わらないですよー！(笑)。お店選びも一緒に演奏する地元の人に訊いたり、自分たちで調べたり。街を歩きながら「ここよさそうだね」ってフラッと入ったりするのも好きなんです！

—— 「演奏しながら世界を旅する」という今の生活は、辻井さんが小さいころに思い描いていたピアニストの生活と重なりますか？

思い描いていた夢ですし、叶ってますね。うん、楽しいです！まあ、時には飛行機が遅れて乗り継ぎができなくなりそうになったりとか、そういうアクシデントはありますけれど、世界中の方々の中で演奏できるのは、想像通りに楽しいことですね。想像を超えていたのは、世界の広さですね。子どもの頃に思っていたよりも世界が広くて、そこはやはり驚きました。アメリカに長く滞在していた時期にアメリカ国内を何度も移動していたのですが、東と西でも時差があって。早朝に出発して、飛行機を3回乗り継いで、深夜になってようやく目的地に着く、みたいなことも結構あったんです。「アメリカという一つの国でも広くて、大きなんだなあ」ってその時実感しましたね。びっくりしました。

—— 確かにアメリカという一つの国でも、場所によって全く違いますよね。

何もないような小さな町から大きな町までいろいろ行きましたね。ニューヨークではブルーノート(※)で本場のジャズを聞いたりもしました。日本でジャズを聴きに行く機会もなかったので、とても新鮮でした。その時もお酒飲みながら(笑)。

♪ 立ち止まった2年間で 立ち止まらなかったこと

—— このインタビューが公開される時点では34歳になりますが、30代に入って感じる変化ってありますか？

ここ2年ぐらいで、演奏もすごく変わったなと思います。表現力もついたかな、と。若いころは勢いだけでも良かった部分もありましたけど、ゆったりとした曲を演奏するの時の表現力やテクニックはついてきたかなと思います。音色の種類も増えたと思いますし、深みも出てきましたかね。この2年は、コロナの影響でコンサートが開催できなくなったり、海外への渡航もできない状況でしたけど、自分の過去の作品と向き合ってみたり、演奏を見直してみたりとか、新しいことに挑戦していました。今まではコンサートと練習、旅も含めた移動で忙しくて、ゆっくり自分を見つめ直す時間が取れていなかったもので、そういった面ではプラスに捉えています。

—— つらい時期ではありましたが、良いタイミングでもあったんですね。

いつかはそういうことをしなければいけない時期が来ていたはずなので、まだ30代の今のうちにできたというのは良かったのかもしれない。コンサートに向けて、いろいろと準備もできましたし、コンサートを再開できた時には新たな気持ちで演奏することができました。

—— コロナ禍に開設された辻井さんのYouTubeチャンネル[Nobuyuki Tsujii Official Channel]での即興演奏や、松任谷由実さんの「春よ、来い」を耳にして、勇気をもらった人も多かったんじゃないかと思います。振り返ると東日本大震災の直後から、海外で演奏される時には日本への支援に感謝するメッセージを届けられていた様子も印象に残っています。

あの震災は音楽家として考えさせられましたね。「音楽で少しでも皆さまに寄り添うことができればいいな」と思っていて、そういう時に、たまたま僕は海外にいました。海外で心配してくださる、海外からサポートしてくださる方々に向けて、「本当に日本に対してありがとうございます」、「温かい気持ちをいただいて、感謝してます」という気持ちを伝えたくて。常に感謝の言葉と、その気持ちをこめて演奏をしていました。

今、世界はこういう状況(ウクライナをはじめとする国際間の紛争や様々な社会的な出来事)の中にいますので、音楽で少しでも世界が平和になって、みんなが笑顔でいられるように、ということも常に考えていますね。

※3 ブルーノート・・・マンハッタン、グリニッジヴィレッジにある世界的なジャズライブハウス



僕はこれまでにたくさんの方々から、いろいろなことを学ばせていただいたおかげで、世界を旅したり、音楽を通じてたくさんの感動をいただきました。両親、それからスタッフの皆さまに囲まれてこれができています。本当に感謝しているし、すごく恵まれている人生だと思っています。今、若い才能のある方々もたくさん出てきています。これからはその次の世代の人たちに、自分が目標になってもらえるような音楽家になっていきたいと思っています。あと、子どもたちに音楽の素晴らしさを伝えていきたい。昨年、河口湖にある小学校で音楽教室を開いたんです。リハーサルの様子を子どもたちに見てもらったりしたんですよ！そういう活動を通して、これからもいろいろな人に出会って、音楽で笑顔を広げていきたいです。

不安よりも自分のやりたいこと 世界は思っているよりも温かい

— ここまでお話しを伺ってきて、辻井さんは、人との出会いやふれあいに躊躇しませんよね。そこは音楽の力もあるのでしょうか？

音楽って言葉が関係ないですし世界共通なんですよ。いろんな国で、いろんな人と演奏できるのは本当に幸せなことです。

— ただ、言葉が通じない、行ったことのないところに行くのが怖いと一歩を踏み出せない若い人も多いです。音楽という共通の言語を持ってない人に、なにかアドバイスを！

もちろん不安もあるでしょうけど、まずは自分の行きたいところを探して、自分のやりたいことをやってみるのが一番じゃな

いかな、と思います。インターネットや、YouTube、テレビでもいろいろ調べられますし、うん、自分がやりたいことをやって欲しい！旅の計画をしっかりと、いろいろ準備して、そこから一歩を踏み出すのもいいと思いますが、行き当たりばったりでブラブラするのもいいんじゃないかと思います。「こうしなきゃいけない」ではなく、自分の「行きたい」、「食べたい」、「珍しいものを見たい」、「街を散策して、空気を吸ってみたい」という気持ちだけでいいと思うんです。何を感じるかは人それぞれですから。

それから旅先で出会う人は温かい方も多いです。少しでも世界のいろんなものに、いろいろな人に触れてみたい。積極的に海外に限らず国内でも旅をして、みんなが世界中の人とつながってほしい。このような環境下ですけれども、特に高校生、大学生の皆さんには、いろんな人に出会ってほしいです。僕は、小さいころからいろんなところで演奏することで、いろんな人と会いましたが、みなさんも旅を通じてよい経験をさせていただきたいです。

— ちなみに辻井さんがこれから行ってみたいと思っている場所、やってみたいことはありますか？

ブラジルに行ってみたい！サンバとか、ちょっと違う音楽を経験してみたいです。

— なんだかとてもないインスピレーションとグルーブが生まれそうな予感が。

とてもないことになると思います(笑)。

大和証券グループ presents 辻井伸行 日本ツアー2022/23



世界ツアーと同内容の意欲的なプログラムで挑む日本ツアーが開催！

多くの聴衆を魅了し続けている辻井伸行の日本ツアーの開催が決定！ コンサートの前半に、2011年のニューヨーク、カーネギーホールでの初リサイタルで演奏し満員の聴衆を圧倒したベートーヴェンの名作ソナタ《テンペスト》を約10年ぶりに披露、深い集中力がもたらす充実度の高いベートーヴェンが期待されます。また、超絶技巧が聴きもののリスト、輝かしい響きが究極の美しさを生み出すラヴェル、そしてメインプログラムにはジャズとクラシックの要素を高度な作曲技術で融合させたカプースチンの傑作を圧倒的な表現力で熱演します。多様なピアノの魅力を余すことなく堪能できる辻井伸行ならではの必聴のリサイタルの開催です！

日程

2022年12月8日～2023年3月17日 全15公演

<2022年>

12/8 (木) 19:00 新潟 柏崎市文化会館アルフォーレ 大ホール
12/11 (日) 14:00 埼玉 所沢市民文化センター ミューズ アークホール
12/15 (木) 19:00 長野 ホクト文化ホール (長野県民文化会館) 大ホール
12/18 (日) 14:00 静岡 沼津市民文化センター 大ホール
12/21 (水) 18:45 名古屋 愛知県芸術劇場 コンサートホール

<2023年>

1/9 (月祝) 14:00 福岡 久留米シティプラザ ザ・グランドホール
1/11 (水) 18:45 広島 上野学園ホール (広島県立文化芸術ホール)
2/20 (月) 18:30 高知 高知県民文化ホール オレンジホール
2/24 (金) 19:00 宇都宮 栃木県総合文化センター メインホール
3/5 (日) 14:00 大阪 ザ・シンフォニーホール
3/7 (火) 14:00 東京 サントリーホール
3/8 (水) 19:00 東京 サントリーホール
3/11 (土) 14:00 甲府 YCC県民文化ホール 大ホール
3/14 (火) 19:00 札幌 札幌コンサートホールKitara 大ホール
3/17 (金) 18:30 秋田 あきた芸術劇場ミルハス 大ホール

プログラム

ベートーヴェン

ピアノ・ソナタ 第17番 短調 Op.31-2 《テンペスト》

リスト

巡礼の年 第2年への追加《ヴェネツィアとナポリ》

S.162/R.10 A197

第1曲 ゴンドラを漕ぐ女

第2曲 カンツォーネ

第3曲 タランテラ

ラヴェル

ハイドンの名によるメヌエット

亡き王女のためのパヴァーヌ

水の戯れ

カプースチン

8つの演奏会用エチュード Op.40

特別協賛:大和証券グループ オフィシャル・エアライン:全日本空輸株式会社 企画・制作:エイベックス・クラシックス・インターナショナル

ツアーオフィシャルサイト https://avex.jp/classics/tsujii-nobuyuki2022_23/

辻井伸行さん直筆サイン入り色紙 抽選で1名様にプレゼント!

ご応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用申し込みフォームから!

<http://www.jyh.or.jp/hm/> ※当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます

応募締切 2022年12月末日



つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.30
まとめてダウンロード



LiLiCoの映画で世界を旅しよう!..... P17



Cover Interview P02

辻井 伸行
みんなが世界中の人と
つながってほしい



おしえて!旅GIRL P18



Youth Hostel Pick up P10

立科白樺高原ユースホステル
森と湖に囲まれたユースホステルから
必要とする人に旅を届けたい



松島むうの晴れときどき旅びより..... P19



Hostelling Magazine x 地球の歩き方... P14

音楽の都 ウィーンを旅する



YH-GUIDE ユースホステルガイド P20

関東/北信越地方



FYI, from HI-Office P16

発行所: 一般財団法人日本ユースホステル協会

編集・発行人 寺島眞

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌の情報は2022年9月20日現在のものです。

変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。